



TWILIGHT FILE 5

撮影現場レポート & 出演者インタビュー

ミライ・アクターズ・プロモーションによる映画“TWILIGHT FILE”第5弾の制作がスタート。3部作の幕開けを飾るクライムサスペンス『らん・ラン・RUN!』の撮影現場に潜入! 撮影の合間にミライ・アクターズ・プロモーションの神品プロデューサーと新人キャスト3人の座談会、そして渡辺大さん、青田典子さん、風間トオルさんらプロキャストからのエールをお届けします。

監督役 播田豊公さん

沢田俊 高味光郎さん

尾形剛俊 風間トオルさん

佐伯小夜 山本博子さん

風間秀俊 渡辺大さん

奥野真子 青田典子さん

本田浩俊 谷和憲さん

美術役 小谷野留奈さん

神品信市さん

撮影現場はいつでも真剣勝負!!

忙しい撮影の合間に取材に応じてくれたみなさん。貴重なお話を伺いました。

プロキャストと新人が作品を作り上げる!

神品「みなさん、撮影は順調ですか? 簡単に役どころを教えてください」
渡辺「風間亮役の渡辺です。どこにでもいる若いサラリーマンが、非日常的な事件に巻き込まれて街を駆け回るストーリーです。撮影は半分以上終わりましたが、お空さんをハラハラドキドキさせる作品ができる予感があります」
谷「そんな波瀾万丈の作品のなかで、僕は唯一のラフシーンを担当しています。(笑)少しもてこで優しい空気を表現できたかなと思います」
風間「僕は、謎のジャーナリストを演じています。監督が「細かいカットで繋げていきます」と言っていたので、仕上がりを楽しみです」

青田「私はそのジャーナリストを愛してしまった女性役です。複雑な女性の気持ちを表現できたら、と思っています」
高味「現場は和気あいあいとしています。でも、僕の役は冷徹さを醸し出す役なので、その和気あいあいとしてもいられないのが(笑)」
神品「新人の3人はどうですか?」
播田「監督役ですが、日常ではありえないシーンの撮影は難しいですが、見どころになっていると思います」
山本「私が演じる佐伯小夜は、逆に、日常的な部分を担っている役。女の子が見てハッピーになれると思います」
小谷野「普通の明るい女の子役です。でも緊張してしまって、ふだんのように笑うのは難しいです……(笑)」

役者を目指すひとたちに先輩から贈られたエール

神品「彼らのように、この世界でチャンスを掴もうとする人たちにメッセージをいただけますか?」
渡辺「僕は17歳からこの世界に入りましたが、最初の頃は右も左もわからず、オーディションを受けては落ちるの繰り返しでした。でも、続けてよかったと思いますし、それだけの魅力が映像を作る世界にはあると思います」
青田「100%入れ込むこと。諦めないこと。努力すること。自分を信じて、そうすれば夢は叶うと思います」
谷「自分はまた右も左もわからない状態ですが、さまざまな役を通して新たな自分を発見する楽しさを感じています。役者を目指している方は、どんな役だろうと挑戦してほしいと思います」

高味「僕は田舎の出身なので、それこそ雑誌を見てプロフェッショナルを養成所に送りまくりました(笑)。青田さんが言うように、信じて努力すれば夢は叶うと思います。宝くじも買わないと当たらないので、まずはアクションを起こすところから始めないと」
風間「大切なのは、自分がやっていることを好きになること。そうすれば自然と魂が燃えてきて、情熱になると思います。オレもそうやって頑張っています」
神品「すばらしいメッセージをありがとうございます」

映画『らん・ラン・RUN!』

STORY

いつもの一日だった、はずなのに…。恋人との待ち合わせ場所でいきなり見知らぬ男に預けられた腕。そして突如、謎の男たちに追われるハメに! なんの前触れもなく開いた、表と裏が交差する非日常の世界。ノンストップ・クライム・ストーリー。

CAST

渡辺 大、山本 博子、青田 典子、風間トオル、谷 和憲、他

■監督:中村隆太郎 ■脚本:酒井雅秋・中村隆太郎 ■エグゼクティブプロデューサー:神品信市 ■製作:ミライ・アクターズ・プロモーション ■配給:株式会社MIRAI ■公開予定:2008年秋



©2008 MIRAI

オーディションで新人が大抜擢!!

現場でしか学べないこと

神品「この作品で、いちばん見てほしいのはどんなところですか?」
播田「僕の役は、警官なのですが、初めて殺される役を演じました! 殺されるアクシオンシーンはいちばん手ごずりましたが、ハイテンションで、スピード感のある部分を見てほしいです」
神品「どんな風にも手ごずりましたか?」
播田「リハーサルに比べると、本番では共演者の方の目の色がガラリと変わったんです。最初はそこでちょっとずつ楽しめたんですけど、なんとか対応できました。やっぱり本番は、テンションが違うということを実感しました」
山本「キヤプターが男性中心なので、アクションのシーンが多かったです。撮影現場は、そんなハラハラするシーンが多い映画です。そんなところまで成長したいという気持ちが強くなってきました」
神品「播田君はこれが4作目ですね」
播田「はい。自分でも、明らかに成長は感じます。現場で、緊張を、まじい具合に出せるようになりまし。昔はガチガチになってしまっていたけれど、今は緊張が心地よくなってきています(笑)」

悔しさに直面したときにどうするか成長の鍵

神品「ヘテロの俳優さんも、見えないところで努力しています。みなさんはどう考えますか?」
播田「共演する先輩の意見は、とてもありがたく聞いています。今回は、渡辺大さんいろいろな助けてもらいました。それを次のテイクに活かしました。僕を殺す田中役の須藤さんにも助けてもらいましたし、プロは違うと実感しました」
神品「山本さんは悔しくて泣いてしまっこともあったそうですね」
山本「お恥ずかしい限りです(苦笑)。泣くことはあまりいいことだとは思ってないですが、自分に対して悔しさを創り出す」

神品「山本さんも播田君も、悔しい思いをたくさんしていると思うんです。それでもじけずに、自分を深めようとする精神的な意欲みたいなものは、見ていればわかります。もしかしたら山本さんよりも演技が上手な新人はいるかもしれないでも、それだけでは判断できないんです」
神品「普段から努力を重ねてください」
播田「はい。僕も、だいぶ意識が変わりました。人に見られていることを常に意識したり、鏡とかも細かいところ、注意して見るようになったり。役者は演技をする職業ですが、ただ演技をするんじゃないんですよ。自分のなかにある生き様を見せたいものだと思うので、自分を豊かにできるように、それをうまく出せるよう、意識しています」
山本「私もその気持ちはずっともつづけているんです。だんだんと、人に見られる機会も多くなってきたので、それをよいレッスンに変えて、成長の糧にしていきます」
小谷野「私は、怒られたときに、悪いことかわず、うまくなるために怒られているんだと思うようにしています。そういう風に前向きに考えたら、だんだん怒られるよりも、褒められることが多くなってきて、楽しくなってきました。これからの夢に向かって頑張りたいと思います!」

(左より)神品プロデューサー、小谷野留奈さん、山本博子さん、播田豊公さん



©2008 MIRAI

©2008 MIRAI

©2008 MIRAI

©2008 MIRAI



MIRAI ACTORS PROMOTION
ミライ・アクターズ・プロモーション

次回作
映画『フランスパンと私』
映画出演者&主題歌アーティスト募集!
オーディションの詳細はP.154へ!